

第 53 回（東京）・第 54 回（大阪） スガウエザリング学術講演会

今年も、様々な業界の方々に講師にお招きし講演会を開催いたしました。

東京講演・大阪講演あわせ 580 名以上の方々にご参加頂き、盛況のうちに無事終了することができました。ご聴講頂いた皆様、講師の先生方、並びに役員をはじめご尽力頂きました多くの皆様に厚く感謝し、深く御礼申し上げます。これからもウエザリング技術にたずさわる皆様のお役に立つ情報を発信し続けて参りますので、ご支援の程よろしくお願い致します。



東京会場の風景



大阪会場の風景

主 催	財団法人 スガウエザリング技術振興財団
テ ー マ	未来を担うウエザリング技術
後 援	文部科学省
協 賛	(社)高分子学会 (社)色材協会 (公社)自動車技術会 (社)日本ゴム協会 (財)日本ウエザリングテストセンター 日本塗料工業会 日本プラスチック工業連盟 (社)日本防錆技術協会 (一社)表面技術協会 (社)腐食防食協会
開 催 日 時	2011 年 11 月 22 日 (火) 9:30~16:40(東京) / 2011 年 12 月 1 日 (木) 9:30~16:40 (大阪)
場 所	アルカディア市ヶ谷 富士の間 (東京) / 大阪国際会議場 10 階会議室 (大阪)

開会のご挨拶

11/22(火)東京会場

スガウエザリング技術振興財団

評議員会議長 **春山 志郎**

講演会にお越し頂き有難うございます。スガウエザリング技術振興財団は、昭和 56 年 12 月に設立されました。

ご承知の通り、最近内閣府で公益法人改革がございまして、本財団は、今までの実績が評価され、公益財団法人として平成 23 年 12 月 1 日、つまり来週から公益財団法人となることが決まりました。(中略)

当財団の事業は 4 つございます。1 つは、ウエザリング技術者の表彰でございまして今まで 29 回行っております。2 つ目は、ウエザリング技術に関する研究助成でございまして今までに 209 件の助成を行っております。3 つ目は、研究委員会でございましてウエザリングに関する自主研究を行っております。そして、4 つ目が講演会でございまして、今までに 52 回、講演者は延べ 306 名、また、聴講者 17,000 名を超えております。今までに行いました講演会をテーマ別に見てみますと、塗装・金属鋼材が一番多く、その他には色彩の問題、有機材料の問題等があり、このような材料の劣化や寿命に関する耐候試験、あるいは複合試験等のご講演を頂きました。お話頂いております講演者の方は、当初は大学の先生が多かったのですが、最近では企業の方も多く、トータルとしてはほぼ半々というところになっております。(中略) 本日はこの講演会の後で、懇親会も予定されておりますので、是非これに参加されまして、異業種間交流を行っていただければと思います。



12/1(木)大阪会場

スガウエザリング技術振興財団

専務理事 **須賀 茂雄**

本日はお忙しいところ、誠にありがとうございます。先週の火曜 22 日に、一足先に東京で第 53 回の講演会を開催して参りましたが、300 名を超えるご参集を頂き、大変盛会でした。本日もこのように 200 名を超える大勢の皆様にお集まり頂き、ウエザリング技術への関心の高さを肌で感じ、この技術に携わるものとして、大きな喜びでございます(中略)

現在、財団法人および、社団法人は公益改革関連法に基づき、今後進むべき道の選択を迫られております。当財団はかねてよりウエザリング技術の普及発展を目的に公益事業を行って参りました。その社会的意義を鑑み、「公益財団法人」の道を志し、11 月 24 日、内閣府総理大臣より「公益財団法人」として認定されました。実は、本日 12 月 1 日は、新たなスタートを切る記念すべき日でございます。(中略)

これからも皆様の声、ご要望を反映した取組みを継続していきたく、引き続き当財団に皆様の声をお寄せ頂ければありがたいと考えております。「公益財団法人」という役割を肝に銘じ、今後もますますウエザリング技術の振興に注力して参ります。皆様のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。





塗料用ふっ素樹脂の誕生から応用までの 30 年 — および今後の展望 —

旭硝子株式会社

化学品カンパニー東京支店フロロケミカル G 主幹

高柳 敬志

「塗料用ふっ素樹脂」に対する社会的要請に対応して誕生した樹脂設計・開発・応用の 30 年の展開を振り返った。耐候性に関する基礎評価、実構造物長期評価結果やキーポイントの応用技術および経済的、社会的要請への価値と効果を検証し解説、さらに溶剤形、水性、粉体などの環境対応形樹脂の開発・応用と貢献度を報告し、最後に高耐候性塗料の重要性と将来のビジョンを展望を紹介した。



【東京】

太陽電池モジュールの認証試験規格と、今後の信頼性技術

一般財団法人電気安全環境研究所 (JET)

研究事業センター 太陽電池技術グループ グループマネージャー

加藤 宏

近年太陽電池モジュールの生産量・設置量は、驚異的な上昇が続いている。この太陽電池モジュールを使用するための要件の1つには、太陽電池モジュールの認証試験規格がある。しかし、この認証試験規格は、太陽電池モジュールの初期性能を評価するスクリーニング試験に留まるとも言われている。本講演では、現行の認証試験規格内容の紹介とともに、今後必要な信頼性確保を目指した活動について紹介した。



【大阪】

新規な腐食促進試験条件による建築用ねじの腐食寿命の評価

社団法人日本防錆技術協会関西支部 副支部長

(関西ねじ協同組合 技術顧問)

佐藤 幸弘

屋外で使用される金属材料の耐食性評価に多くの腐食促進試験方法がある。しかしながら、これらの方法で、建築用のねじやファスナー部品の耐食性を定常的に評価するには企業にとって負担であり、相関性にも課題がある。そこで、操作が容易でしかも実曝露と相関性の高い試験条件を考案した。この条件により市場に流通しているねじなどの表面処理部材の腐食寿命を評価した結果を紹介。尚、実曝露は中国重慶の研究機関と連携し中国でも行っており、最近のアジア圏での腐食調査状況についても併せて紹介した。



グローバル大気腐食データベースの構築 (2) — 亜鉛及び銅 —

ISO/TC156(金属)WG4(大気腐食)主査

(スガウエザリング技術振興財団 腐食研究委員会)

石川 雄一

昨年本学術講演会で紹介した炭素鋼のグローバル大気腐食データベースに引き続き、亜鉛(亜鉛めっきを含む)及び銅のデータベースの構築と大気腐食マップの作成について述べた。また大気腐食のメカニズム、国際規格(ISO)による大気の大気腐食性分類方法、長期間の腐食挙動の特徴についても紹介した。



ウェザリングと雲科学

北海道大学

低温科学研究所 雲科学分野 教授

藤吉 康志

雲科学では、「雲を発生させるプロセスと雲がもたらす現象」全てをシームレスに研究する。従って、「太陽光、雨、雪、霧、風」といったウェザリングをもたらす現象は、まさに雲科学の研究対象である。本講演では、雲の性質を基礎からの説明と共に、「風を観て、雲を掴む」最新技術によって初めて明らかとなった、ウェザリングに深く関与する興味深い大気現象についても紹介した。



遮熱塗料の設計ポイントと標準化

日本ペイント株式会社
汎用塗料事業本部開発部 チームリーダー

加茂比呂毅

省エネにも貢献できる機能性塗料として、近年、遮熱塗料が注目されてきている。遮熱塗料の設計のポイントと耐候性における遮熱塗料特有の現象について知見を交えて説明した。また今年の夏に制定される遮熱塗料の製品JIS「屋根用高日射反射率塗料」の内容について紹介するとともに、標準化する際に議論になった点について解説した。



多様化する自動車用材料の防錆課題と腐食評価技術

日産自動車(株)
要素技術開発本部 材料技術部 車両先行開発グループ
アシスタントマネージャー

三谷貴俊

自動車に求められる防錆性能は、お客様にとって、当たり前の耐久性能である。そのため、お客様要求の防錆期間を保証した上で、コストミナムな防錆仕様を選定することが要求される。一方、近年の自動車業界を取り巻く環境の変化とともに、材料の多様化が進んでおり、それぞれの材料に適した腐食評価技術開発が必要となっている。今回は、多様化する自動車用材料の防錆課題と腐食評価技術について紹介した。

(敬称略)

懇親会の風景

本年も講演会終了後、講師の先生方を囲み懇親会を開催致しました。
須賀茂雄理事の乾杯発声の後、ご歓談の中熱心にご質問される方々などで、にぎやかな会となりました。



東京会場の風景



大阪会場の風景